

きぼうの虹フォトコンテスト特選作品
「北大農場とポプラ並木」
kaori ito (学部生)



発行所
北海道大学生協同組合
札幌市北区北8条西7丁目
教職員委員会編集
電話 011-746-6218

主な記事紹介

- 二面三画 ニホンザルこぼれ話 第14話
- 四画 北大生協きぼうの虹フォトコンテスト審査結果発表!!
- 八画 大学文書館へ行こう 第21回

北極域研究センターの設置

私が所属している北極域研究センターは、国立大学法人で初となる北極域研究に特化した研究センターとして平成27年(2015年)4月に設置されました。弊センターのことは知らなくても、博物館にセンター紹介の一環で展示されているホッキョクグマをご存じの方もいらっしゃると思います。地球温暖化が北極域で顕著に進行する一方で、北極海底にある未発見の石油天然ガス資源、グリーンランドの鉱物資源、新航路としての北極海航路に世界中の関心が向けられています。日本政府は2015年に北極政策を初めて策定し、その研究面の柱として北極域研究推進事業(ArcCS、2015-2019年度)を立ち上げました。

従来、世界の北極域研究は自然科学分野を中心に発展してきましたが、国際極年2007-08から人文社会科学分野も北極域研究に必要不可欠な存在となり、ArcCSにおいても人文社会科学分野を含めた総合的な北極域研究が求められていました。こうした中、北海道大学が自然科学から人文社会科学を含めた弊センターを設立し、国立極地研究所と海洋研究開発機構と共にArcCSの実施機関を務めてきました。現在は、北極域研究加速事業(ArcCSII、2020-2024年度)が実施されています。

私は、北極域の国際関係についての研究をしていることもあり、

北海道大学のレガシー

2017年2月から弊センターの旧人文社会科学研究グループの責任者として奉職することになりました。

皆さんは、低温科学研究所の図書室を訪れたことがありますか。

北極域研究の新地平の開拓へ

北海道大学北極域研究センター
総合戦略室
特任准教授
大西 富士夫
(大学院文学院スラブ・ユーラシア学講座
/スラブ・ユーラシア研究センター)



Opinion!

この図書室には北大の研究者が国内外において北極域研究を担ってきた記録が多く残されています。また、低温科学研究所、地球環境科学研究院からは、国内の北極域研究の中心機関である国立極地研究所と海洋研究開発機構に多くの研究者を輩出してきました。この意味で、北海道大学は弊センターが設立される遙か以前から日本の北極域研究を人材面で支えてきたといえます。

より最近では、北極域研究の人文社会科学分野においても、スラ

新しい地平へ

弊センターでは、こうした北海道大学の北極域研究のレガシーを継承しつつ、世界の北極域研究において「北大らしさ」「北海道らしさ」を追求することで、北極圏にはみられない、ユニークでオリジナルな北極域研究の拠点になることを目指しています。今年7月から6つあった研究グループを北極域研究ユニット、広域横断研究ユニット、連携融合研究ユニットへと再編し、各ユニットの上に総合戦略室を設けています(令和6年7月1日)。

北海道は北極域とアジアのちょうど中間に位置することから、弊センターがハブとなり、北極域と中緯度/アジアの相互作用を環境面、文化社会面から総合的に解明することに取り組んでいます。また、アジア的な視点を北極域研究に取り入れることで、儒教的な文化圏に育まれてきた環境倫理を再発見し、近代以降の人間中心主義的な倫理観の見直しにも取り組んでいきたいと考えております。言いは易し、行は難しではありますが、今後の北極域研究センターにご期待ください。

EzoliNK 風張 喜子
地域個体群研究会
北海道文書大 館学井上 高聡



えぞりんく EzoLin-K・地域個体群研究会 風張 喜子

ニホンザルの会話!?

ー What dose the monkey say? ー

ちょっと前にプロ野球ファンの間で流行った「きつねダンス」、歌詞は動物たちの鳴き声が題材でしたね。鳴き声のオノマトペが次々に紹介される英語の曲ですが、日本語のオノマトペと似ているのや違うのがあり、個人的には面白かったです。その中で、キツネについては「What dose the fox say?」と歌われています。キツネの鳴き声はあまり知られていないみたいですよ。

すよね。皆さんは、聞いたことがありませんか？発情期の声だそうですが、我が家の「コンコン」、わたしはまだ聞いたことがありません。よく聞くのは「ギャーギャー」という声です。少ししわがれて物悲しい響きだけれども、よく通ります。季節によっては連日、夜中に繰り返して鳴くので、寝不足の原因になることも。



動画へジャンプ!

一緒にいると緊張する相手っていますよね!?相手のちょっとした表情の変化に、つい「キャキャキャ」と小さな悲鳴が漏れてしまった瞬間。

では、サルの鳴き声といえは?よくある表現は金切り声の「ウツキー!」でしょうか。「ウツキー!」とはちょっと違いますが、金切り声に近いニホンザルの音声には、強い相手に喧嘩を売られたときの「キャー!キャー!」という悲鳴があります。群れの中で幼い子の悲鳴が聞こえると、母ザルがすっ飛んで行って子ザルをかばうのがよく見られます。オトナになると、ちょっとやそっとの悲鳴では誰も味方してくれませんが、相手がオスだと、時には一家総動員で対抗します。だからなのか、怖ければ一目散に逃げたいのに、わざわざ相手に向き直って、味方が来ないか後ろをちらちら確認しながら「キャー!キャー!」と騒ぐメスたちもよく見ます。まるで、「この人、酷いんですー!!」の人にやられたんですー!!

な来てー!」とても言っているみたいですよ。でも、追いつかないといけないようなオスではないのか、それとも緊迫感が薄いのか、加勢に向かうサルは、そういう時ほど少ないような気がします。

ニホンザルの群れについて歩いていて、よく聞くのは「ほわっ」とか「ソ〜」とか「ク〜」と聞こえる声です。ク〜コールと呼ばれる声です。この声は、いろいろな場面で聞かれます。例えば、おいしくて栄養のある実がたわわになっていたり、大きな木を見つけた時。木に登って「さあ食べよう!」というサルたちが一斉に鳴きまわす。うれしくて興奮しているのか、ちょっとだけうわづっているようにも聞こえます。これに似たような声は、動物園のサルたちでも聞くことができます。餌を持った飼育員が近づくと、一斉に鳴く場面に遭遇したことはないでしょうか?

赤ちゃんに「君の椅子」として、名入りの木の椅子を贈る町がある。親の支えて椅子に乗った子が、いつか自分で座るようになった時、椅子が自分の居場所になるのだ。▼ほのぼのとした椅子の話がある一方、あれ?と思う事に遭遇した。先月、空港行バス待合所の小屋が取り壊され、時刻表の看板だけが残った。老母が横になったこともある3人がけベンチもなくなった。近くのバス停にはベンチはあるが、二本の棒で仕切られていて、人は横になれない。▼札幌市営地下鉄のすすきの駅。改装後、ホームのベンチが消えた。代わりにホーム北と南に現れたのが、スチール製の半月型横棒。丸い上部は座りにくかった。ここもかと思つたが、後日、ホームの中ほどにベンチが一台戻ってきた。▼仕切りのないベンチが消えていくのは、最近始まったことではなかった。『誰のための排除アート?』(五十嵐太郎著)には、真ん中にオブジェや花のプランターが置かれる等、工夫を凝らしたベンチの実例写真が出てくる。寝床代わりにするホームレスを排除する為だ。▼公共空間にある椅子は、みんなの椅子ではないか。具合が悪い時には、「君の椅子」になって横にならせてくれる。そんな優しいベンチが消える光景からは、寒々とした未来しか想像できない。(今日子)

いじわるじいさん

たメスのサルたちが、一斉に鳴きます。「怖かったねー」「ねー」「大丈夫だった？」とでも言い合っているかのようです。これらはほんの数例ですが、クーコールはいろいろな場面で鳴かれるので、なぜ鳴くのか、どんな役割なのか、実ははつきりと分かっていることが多くあります。

ザルのクーコールみたいだなと思います。そうなんです。クーコールは、群れの仲間がお互いの居場所を把握するのに役立つというとも言われています。サルたちは、特に変わったことのない穏やかな時間にも、「クー」「クー」とよく鳴き交わります。「クー」と言ったサルは、誰も続けて鳴かないと、少しだけ間をおいてもう一度

「クー」と言います。2回目は、最初の「クー」より少し高い声を長く出すそうです。そして、高くても長い「クー」のほうが、仲間が続けて鳴くことが多いことから、返事が欲しくて「クー」と呼びかけていると考えられています。

群れからはぐれてしまった時は、ふだんの「クー」よりもずっと高くても長い声で「クアアアアーツ」と鳴きます。もう、ほとんど呼び声です。返事が欲しくて、遠くまで届くように頑張っているのかもしれない。その声を聞いた仲間たちはというと、大きな声で返事をしてあげることが稀。クールなもので、近くの仲間たちと小さく「クー」と鳴き合うだけだったりします。



動画へジャンプ!

母ザルが見えなくて不安になったアカンボウ。立ち上がって呼びかける真剣な姿に…キュン…。

紹介します。あつた! あ、あつちにも!と少しずつ移動しながら探っていくます。すると、地形の起伏や背丈を超えるササのおかげで、すぐに一緒に走っている夫や仲間の姿は見えなくなりますが、仲間がどこにいるのか、離れすぎているのか、気になります。「おーい!」「おーい!」と声を掛け合います。こんなやり取りをするたびに、二ホン



動画へジャンプ!

クーコール中。実は群れの半分とはぐれている最中です。まわりの仲間のクーコールの響きはいろいろ。みんな、いったいどういう心理状態?

さて、二ホンザルは仲間の声を、基本的には聴き分けられるそうですが、わたしが鳴きまねをすると返事をしてくることがあります。見通しの悪い場所では、その成功率が高まります。だから、見通しの悪い場所で群れを探す

ときには、鳴きまねをしてみます。すると、それまでシーンとしていた斜面から返事が返ってくることもあるんです。何度かの「クー」で返事がなければ、最後は「クアアアアーツ」と叫んでみます。こんな怪しい姿は、誰にも見せられません。でも、これで時々群れに出会えるから、なかなかやめられなかったんです。

ある日、「クアアアアーツ」と叫んでみると、遠くから「クアアアアーツ」と返事。やった!と思っていると、すぐに走り寄ってくるサルの姿が見えました。あれ?1頭しかいません。群れからはぐれていて、仲間を探していたようです。どうやら、仲間がいると期待させてしまったみたいですね。人間しかいないと見るや、また「クアアアアーツ」と叫びながら、走り去って行きました。こんなことは1度だけ

おまけ
「キツネのおもしろ音声」
にジャンプ!

第11回フォトコンテスト「北大百景2024」審査結果発表!!

審査員：生協学生委員会、生協院生委員会、留学生委員会、生協教職員委員会、生協理事会室
 特選および各賞入賞者の皆さんには、生協電子マネーポイントを贈呈いたします。

「きぼうの虹」フォトコンテストも今年で11回目となりました。7月1日から8月31日までの約2か月の応募期間で開催いたしました。今年は大学内での行動範囲も広がり、構内様々な場所の美しい風景が多く寄せられました。全29点の素晴らしい作品の中から各審査員それぞれの感性に響いた作品として、特選1点、各委員会賞4点と特別賞1点を選出いたしました。ほかにも素晴らしい作品が多く、今回全てをご紹介できないのが本当に残念です。応募していただいた皆様、本当にありがとうございました。

特選

北大農場とポプラ並木

伊藤 花織 (学部生)

北大農場で飼育されている牛と、美しいポプラ並木が広がる風景の写真です。

●審査員コメント

正に北大!

ポプラ並木とビルが並ぶ景色はここでしか見られない風景ですね。

晴れ渡った空と芝生の緑がとても美しいです。



学生委員会賞

冬の日

楊井 雅太 (学部生)

冬に撮った北大構内の写真です。空気の澄んだ朝、幻想的な雰囲気を感じました。

●審査員コメント

冬の澄んだ空気が伝わってくる綺麗な雪景色が高評価でした。端の方が少しぼやけているのがこの写真の幻想的な雰囲気をいっそう引き立てていて素敵でした。ポストカードなどで誰かに送りたいですね。



院生委員会賞

冬のある日

花野 裕紀 (大学院生)

北大農場で撮影した一枚。太陽が沈みかけているその瞬間を映している。長い夜の始まりを感じる。

●審査員コメント

雪原をかき分けて進んでいると、寒すぎて思わず笑いそうになる。けれど、頬が凍りついてうまく笑えない。とりあえず、日の出に向かって一直線に歩いていく。そんな「ある日」の1コマが想像できる、寒くて温かい作品です。



教職員委員会賞

迫夜「藍」

野口 真司 (大学院生)

十月の夕方、午後五時半過ぎ。秋も深まり冬の足音が近づく中、迫りくる夜の空は美しく藍に染まる。

●審査員コメント

午後五時半過ぎの藍色の空と街灯の温かな光が織りなす絶妙な調和により、秋から冬への移ろいが表現されています。点字ブロックと木々の奥行きが写真に深みを加えており、北大構内の広く美しい景色が表現されています。



理事会室賞

Memory; twilight

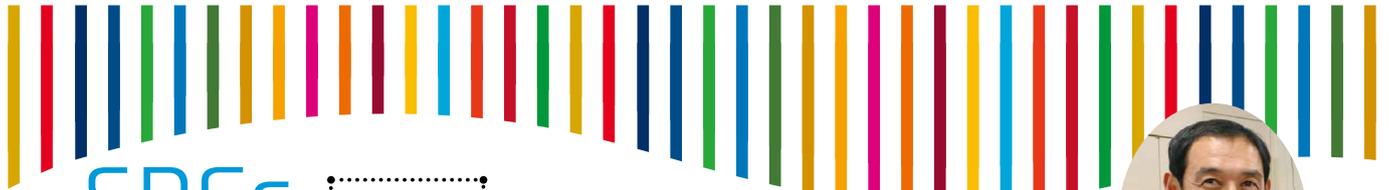
秦野 勇輝 (学部生)

海洋生物科学科、秋の乗船実習の際に、おしよる丸のアップーからみんなで朝焼けを見ました。

●審査員コメント

水平線に昇る朝陽を前に佇む実習生の後ろ姿に、新たな一日の始まりへの意気込みが感じられる、水産学部ならではの一枚です。大海原での実習は自然の素晴らしさだけではなく厳しさも味わう日々ですが、航海を終えたその背中にはひとまわりもふたまわりも大きくなっていることでしょう。





SDGs

連載 第6回

GSDC(Global Sustainable Development Congress)2024参加報告

北海道大学SDGs事業推進部門 教授 加藤 悟



GSDC (持続可能な国際会議) は、タイムス・ハイヤー・エデュケーション (THE) が主催する、持続可能性の課題に対する解決策を議論する年1回開催される国際会議である。2024年の会議は、6月10日より4日間、タイのバンコクで開催され、87か国、1,447の機関から3,189人の参加があった。北海道大学はTHEインパクトランキング国内1位の実績が評価され、THEから2023年に引き続き登壇者として招待され、横田篤理事・副学長 (最高サステナビリティ責任者) がパネリストとなり行くことになった。筆者もこの会議に同行することができた。

昨年参加したときは、世界の高等教育の世界でSDGsが世界共通語としてコミュニケーションとアクションが図られていることに驚いたが、今年も驚かされることばかりであった。

開会のあいさつとして、THEのグローバル担当最高責任者のPhil Baty氏は、「optimismについてお話する必要がある」と切り出した。筆者はこのとき、なぜ「optimism」なのか、よく理解できなかった。

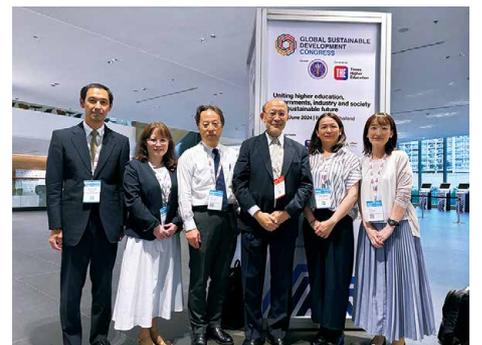
続いて、5月8日にイギリスの新聞The Guardianに気候学者のRuth Cerezo-Mota博士が「この3年間、世界各地で起こった洪水、火災、干ばつはすべて気候変動に関係しており、私の母国であるメキシコではハリケーン・オーティスが猛威を振るった。絶望を感じ、心が折れそうになる。」の発言を引用した。

さらにPhil氏は、シンガポールのシャンムガラトナム大統領の言葉を引用した。「気候変動を食い止めるためになすべきことを先送りする『自己満足的な楽観主義』は悪いが、さまざまなことと関わりを絶ち平伏するほど悲観主義 (不安) になってはならない」。経済学者のポール・ローマーが2016年にoptimismについて「Complacent optimism (自己満足的な楽観主義)」と「Conditional optimism (条件付き楽観主義)」に分けたことを紹介し、「自己満足的な楽観主義は、プレゼントを待つ子供の気持ちです。条件付きの楽観主義は、ツリーハウスを建てようと考えている子供の気持ちです。」と述べていることを引用し、「楽観主義とは、困難を前進するチャンスと捉えることであり、今日の会議にはそのような楽観主義者の会議であるべき」と意見を表明した。

4日間の会議の中で、さまざまな登壇者が、この開会のあいさつで提示された「ツリーハウス」に触れ、好奇心を持ってツリーハウスを作りたいと考え、木材と釘などの簡単な材料と、一緒に作る仲間を見つけて、実際に作り、作るプロセスも含めて完成したときの喜びを分かち合える世界をつくることに対して賛同を表明した。また、ツリーハウスを作りたいと好奇心を持つ学生・生徒を決して過小評価をしないことも何人もの登壇者が述べていた。

本学の横田理事・副学長は、登壇したセッションのテーマである生物多様性について、リアルな自然環境を活用した教育の実践を紹介し他大学から賞賛を受けていたほか、昨年に引き続き組織のサステナビリティを推進するには学内外のエンゲージメントの重要性を強調し、本学の取り組みが世界の高等教育機関の方向性と一致していることを確認し、背中を押される気持ちで帰国した。

帰国してから、ポール・ローマー氏の論文を調べてみた。optimism (楽観) とcomplacency (自己満足) は異なることや、内生的 (endogenous) 成長理論について深く知ることとなった。好奇心を持って、仲間を見つけ、実際に取り組むことの重要性を再認識した国際会議となった。



今回の会議に参加した北海道大学のメンバー (右から3番目が横田理事・副学長、左端が筆者)

クラーク書籍便り

Vol.20

8月はアイヌの歴史を知るツアー一行が来店、一般の観光ガイドに載らないようなさまざまな北大の歴史を紹介した案内書を含めて、関連書籍がよく動きました。『百年の孤独』はガルシア・マルケスの世界的なベスト&ロングセラーの待望の文庫化で、発売一ヶ月余で全国の大学生協で1,100冊を超える売行きです。

クラーク 8月一般書ランキング

	書名	著者名	出版社		書名	著者名	出版社
1	アイヌ語地名の歴史	児島恭子	吉川弘文館	6	暇と退屈の倫理学	國分功一郎	新潮社
2	百年の孤独	ガブリエル・ガルシア・マルケス	新潮社	7	ポケット六法 令和6年版	佐伯仁志	有斐閣
3	北海道大学ピースガイド	ピー・アンビジャス 9条の会・北海道		8	バトラー入門	藤高和輝	筑摩書房
4	TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ	TEX加藤	朝日新聞出版	9	アイヌもやもや	北原モコツウナシ	303 BOOKS
5	北海道大学もうひとつのキャンパスマップ	北大ACMプロジェクト	寿郎社	10	アイヌがまなぐす	石原真衣	岩波書店

心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

渡邊 誠



カウンセリングなどの心理支援に関する授業をしているうちに、考えるようになったことがあります。普通、大学の授業は「〇〇について」伝えるものだと思います。でも、心理支援についての授業は、それで充分なのだろうか。ある時カウンセリングの中で、虐待を受けて育ち、死にたいという気持ちやその他の症状で苦しんでいる少女が、私に向かって言いました。「先生は、私が治ると思ってる?」。強い言い方ではありませんでしたが、そこには抜き差しならぬ気迫のようなものがありました。少女は、自分が良くなる可能性や、方法について問うているように思えません。マニュアル的に答えの出しようのないこういった問いに、どう答えるか。そういうことを伝えるのが、心理支援についての授業だと、私は思っています。

愛について語るのと、愛することは違います。ラヴ・ソングは、愛についての歌です。でも、愛そのものを、愛とは何かを伝えるラヴ・ソングもあるのではないかと。「愛について語るな。それは安易だ。愛しぬけ love me up」(Bryan Ferry: Love me madly again) と歌った英国のロック・ミュージシャンのブライアン・フェリーは、別の曲でこう歌いました。「Singing to you like this is / My only way to reach you (こんな風に歌うことが、あなたにとどく、私の唯一の方法)」(Roxxy Music: Just another high)。英国のニューカッスル大学で、ポップ・アートの先駆者リチャード・ハミルトンの下で美術を学んだフェリーは、ゲイの人たちが多く集まるのでした。歌い手はまったくの異性愛です。普遍的な愛を体現する音楽だからだという意見に、私は賛成です。

同じようなことが、授業でもできないだろうか、支援についてじゃなくて、支援そのものを伝えるような授業…提示すること present じゃ足りない、とどくこと reach が必要だ、そう思いました。学術的な内容の授業を、可能

こころの健康を考える 86

愛すること、愛について語ることは違うように

な限り心理支援の原則と方法により行うようになっていきました。学生たちの雰囲気、何か伝わってくるもの、常に波長を合わせようと、声、言葉、力点を置く内容をそぐわせてゆく。タブーをつくらぬことを目指し、とくに性愛、死別の悲しみ、トラウマ体験のようなテーマには、慎重に、でも積極的な意見を含めて、あらゆる問いかけを取り上げ、共有し、返答する。そして、自分自身のことも話す、失敗したこと、辛かったこと、楽しかったこと…

授業は、音楽のライヴに近くなり、即興性のある、受講者と一緒につくり上げてゆくようなものになっていったと思います。でも、これは、こちらの「つもり」なので、授業の感想などを手掛かりに、判断しなくてはなりません。：カウンセリングを受けているみたいでした、癒されます、支援のお手本を見せてもらいました…まあ、肯定的な評価ではない、はつきりしたことがわからないです…批判はもちろんあります。でも、賛否両論がある方が、いいような気がします。

ところで、先の少女の問いに対する私の答えです。「あなたが治るほうに、自分は賭けている」…これがその時の私に言える、精一杯のことでした。相手が存在をかけて発したであろう問いに、自分も存在の底のところから答えようとする、ということでしょうか。少女がどう思ったかは、わかりません。でも少女はその後を生きのび、母となつて、今も生き続けています。…一九六〇年生まれの私は、自分がいなくなつた後の世界のことを、考える年齢だと思っています。

ほけんのお話

火災保険がこの10月に改定されます。自然災害の頻発による火災保険収支悪化を改善するため、リスクの高い築年が古い建物の料率、水災のリスクが高い地域の建物の料率が上がり、結果、平均で料率が上がります。

築年30年まで1年ごとに料率を定め、30年以上は同じ料率とし、築年が古い建物ほど料率が高くなります。水災は全国一律の料率をやめ、市区町村単位で1等地から5等地に分け、5等地が最も高い料率になります。住んでいる場所によっては「えーそうなの?」と口に出そうになります。要は、築年が古い建物ほど、水災の発生リスクが高い場所にある建物ほど保険料が高くなります。リスクに応じた保険料ということですね。

保険会社が運営する損害保険料率算出機構は、各社の収入保険料と保険金の支払い状況を補償項目ごとに膨大な量のデータを駆使して参考料率を改定しました(改定時にHPで公開)。保険会社は、この参考料率に各社の経営状況や保険の補償の改定を加味して保険料を改定しています。

10月以降更新手続きをするときに、この10年で数度の改定を経ているので、火災保険は5年以上の長期契約の更新後の保険料の上がり具合は結構なものです。

火災保険は必要なものとして理解しつてもやはり保険料が高くなることは家計に響きます。軽微な損害は自分で備え、大きな損害は保険で備えることにして、免責金額(自己負担金)や特約を選択して、補償の内容と保険料のバランスを考えていくことがポイントとなります。



北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

■オープンキャンパスで「北大生と話そう」などを行いました！

8月4日、5日に行われたオープンキャンパスにて「北大生と話そう」「北大生と歩こう」という企画を行いました。「話そう」は受験生、保護者が北大生に受験や北大生活のことを聞いた、相談したりできる企画です。「歩こう」は札幌キャンパス内を北大生と散策しながら、雑談や相談をする企画です。どちらの企画も北大生と話すことで不安や疑問を解消できた、との声を多くいただきました。また、受験生冊子「NITOVE」の作成・配布やYouTubeへの動画投稿、YouTube Liveなども行いました。

■夏の店舗企画を行いました！

7月中旬から8月上旬にかけて食堂・購買・書籍にて企画を行いました！食堂では試験応援企画としてパンケーキの提供や健康促進ポスターの掲示、購買では「涼しいフェア」として涼しさを感じられるような商品の販売、書籍では「GIおすすめ本フェア」を行いました！

院生委員会

■総代のつどいを開催しました！

7月8日、中央食堂2階にて「総代のつどい」を開催しました。最初に院生委員が生協の事業や活動について紹介し、その後グループに分かれて意見交流を行いました。「普段の生活で困っていることは？」「大学生生活でやってみたいことは？」など身近な話題から、生協を絡めた提案へとつなげていきました。「北部食堂の座席に、目印になるような名前をつけてほしい」などたくさんの意見をいただくことができましたので、職員の方々と協力しながら一つずつ実現していきます！



■北大生協シンパを開催しました！

9月25日、北大生協の職員・理事監事・組織委員・総代などを対象とした「北大生協シンパ」を開催しました！当日は所属や年齢の違いを越えて様々な交流が生まれていきました。昨年度復活したこの企画、来年度以降も継続していきます！

留学生委員会

■部署を設置しました

4月の新入生及び新入留学生を対象とした勧誘の結果、新たに10人以上がメンバーとして加わり、それに伴って新たに部署を設置しました。イベント部門、PR&コミュニケーション部門、リクルート部門の3つです。これからは部署に分かれてそれぞれ必要に応じた活動を行い、部署間の連携も深めていく予定です。

■レストランポラで生協アプリ加入促進キャンペーンを行いました

国外からの学生や研究者等の利用が多い、レストランポラにて、生協アプリの加入促進キャンペーンを開催しました。キャンパス中、生協留学生委員が国外からの留学生や研究者にも生協の登録がスムーズに行えるように、翻訳するなどの登録のための支援を行いました。



教職員委員会

■教職員総代会議…7月9・10日、9月10・11日の昼休みにWeb会議により開催しました。食堂の人員不足による混雑、購買店の文具の品揃えについてのご意見を頂きました。今後も総代会議でさまざまなテーマでご意見をいただければと思います。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

■教職員委員会…9月12日、定例会議を開催し、きぼうの虹の編集および総代会議での意見について話し合いました。

■「きぼうの虹」…この冊子です。毎回Onlineや特集ページなどで、多くの教職員の方にご寄稿をいただいています。

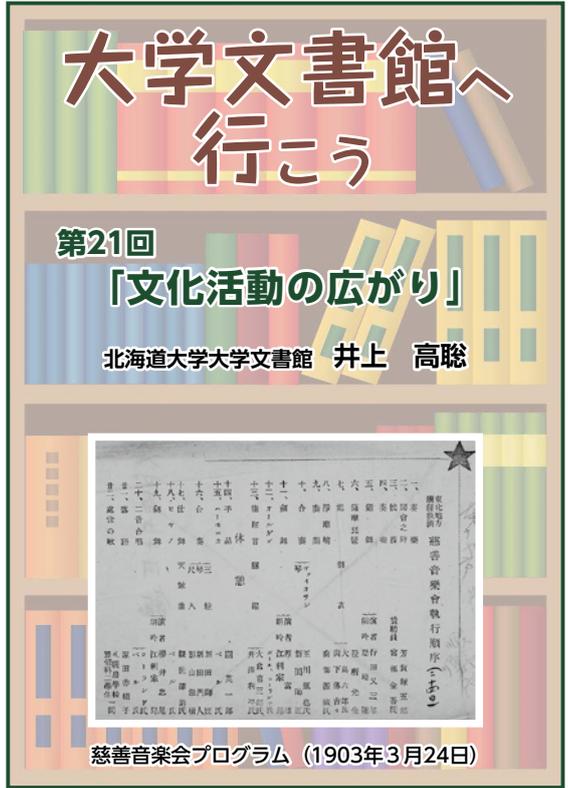
【編集後記】

ここ数年の気候変動が、私たちの生活を大きく変えている気がします。連日、猛暑日が続く、昨年と並んで今年の夏の平均気温は過去最高を記録したそうです。学校のグラウンドでは、学生たちが熱中症対策として、細目に給水をとったり、塩飴などで塩分を補給したりして練習しています。そして、季節は進みまわす。「秋の日はつるべ落とし」と言われるように、秋は他の季節に比べて急速に日が暮れます。寒暖の差も大きくなり、体調を崩し易くなります。「収穫の秋」、「読書の秋」、「芸術の秋」、「スポーツの秋」、「行楽の秋」など秋にはいろいろな言葉がつけられます。最近の秋は少し短くなってしまった気がしますが、夏の疲れを回復して、英気を養って今年の冬を乗り越えましょう！

文化活動の始まり

外国人教師や海外留学を経験した卒業生などが持ち込んだ西洋の文物は、好奇心旺盛な札幌農学校生の手を経て、札幌の街や北海道各地に広がっていきました。キリスト教信仰、運動会、各種スポーツ、文芸、美術、音楽などの文化の起点は、札幌農学校であったと言えます。

文化活動では、早い時期から農学校生が演説会・講演会・講話会などを盛んに開催しました。札幌農学校初代教頭W.S.クラークは弁論術を重視し、カリキュラムに「能弁学」(Elocution)を加えました。また、クラークの肝煎りで農学校生たちは「開識社」を結成し、カリキュラム外でも週一回、弁論・討論・対論の集会を開催し



ています。一八九二年には予科生が中心となり「学芸会」を結成して演説会などを開催し、また、機関誌『蕙林』(後に『学芸会雑誌』)と改題を発行して、学術論考、論説、紀行、小説、詩歌などを発表しました。会頭の新渡戸稲造教授の指導と影響の下、活発に活動し、数年後には全校生徒が会員となるほどの文芸活動団体となりました。

一九〇一年、学芸会は体育系団体「遊戯会」と合併し、校友会的な性格を持つ「文武会」を結成しました。文武会では、演説会・遊戯会・遠足会などを開催し、『文武会雑誌』(後に『文武会会報』)を発刊するほか、下部団体として撃剣部・柔道部・弓道部・庭球部・野球部・スケート部などを置いて、公認部活動の

統轄団体としての役割も果たしました。

チャリティー演芸会

文芸以外の文化活動は、別の形で広がりを見せます。一九〇三年二月二十四日、前年の東北地方の農産物大不作を受けて、札幌農学校寄宿舎が主催し、「東北地方饑饉救済慈善音楽会」を、札幌座(南七条西三丁目)で開催します。プログラムは、剣舞、琵琶、琴・三絃・尺八などの和楽器、ヴァイオリンなどの洋楽器、能、狂言、浄瑠璃、手品、落語と、多彩な演芸会といった内容です。能や和楽器には本職の師匠連が加わり、浄瑠璃・



美術部「黒百合会」(1920年代後半)

店主たちが演じました。ヴァイオリンを北海道師範学校の音楽教員、オルガンは札幌農学校英語教師を務める宣教師ポール・ローランドが演奏しています。そして、剣舞・手品・尺八などは札幌農学校生が演じました。当日の「恵迪寮日誌」には、入場者が二二〇〇名に及び、「音楽ノ高尚、能ノ優美」、「演者ハ皆ナ札幌屈指ノLine Gentsen & Jack」、「聴者ハ水ヲ打チタル如ク静寂ナリ」と記しています。好評のため翌二十五日にも追加公演を行なっています。以降も札幌農学校の有志がこうしたチャリティーを開催します。

美術・音楽活動の展開

札幌農学校が大学に昇格した翌一九〇八年、予科生藍野祐之と原田三夫が中心となり、予科助教有島武郎なども加わり、絵画愛好団体「黒百合会」を結成しました。「黒百合会」の命名は本科一年生の小熊捍(後に農学部教授)です。十月二十五日に第一回スケッチ展覧会を開催し、水彩画を中心とした二百点以上の出品を約五百名の入場者が観覧しました。『文武会会報』掲載の記事には設立経緯として、大学では文学趣味は盛んであるが絵画の方面は立ち遅れていることを上げています。黒百合会は以降、毎年美術展を開催していきま



音楽部内のマンドリン部 (1929年)

一九一五年二月十四日には予科英語教師P.ローランドが指導する農科大学グリーククラブが農科大学図書館で第一回音楽会を開催しました。大学教員・学生からなるグリーククラブが披露した合唱には、宮部金吾教授や森本厚吉助教も加わりました。他にピアノ、マンドリン、ヴァイオリンなどの演奏も披露しています。その後、合唱団、オーケストラ、マンドリン合奏団が活動を繰り広げます。

こうした活動を経て、一九二四年六月一日に文武会の下部組織として音楽部が、一九二五年九月十七日に美術部がそれぞれ成立し、大学の課外部活動として定着していくことになります。